

【須恵町】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	3,067	3,072	3,010	3,024	2,980
② 予備機を含む 整備上限台数	3,527	3,485	2,530	1,678	760
③ 整備台数 (予備機除く)	54	755	755	755	661
④ ③のうち 基金事業によるもの	54	755	755	755	661
⑤ 累積更新率	1.3%	21.7%	52.0%	76.9%	100%
⑥ 予備機整備台数	9	113	113	113	99
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	9	113	113	113	99
⑧ 予備機整備率	14.3%	15%	15%	15%	15%

(端末の整備・更新の考え方)

令和6年度については児童生徒の増があったため購入を行う。更新については令和7年度から令和10年度の4年間に渡って行き、年度ごとに4分の1ずつ更新をしていく予定である。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

更新対象端末については、学校で利活用していく予定である。

故障などにより再使用ができない端末については、事業者にも再資源化を依頼する予定である。

○端末データの消去方法

- ・自治体の職員が行う
- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール(予定)

端末の更新を段階的に行うため、処分スケジュールについても端末の更新に合わせて必要な台数を段階的に行っていく予定である。

【須恵町】
ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合(%)
学校数：小学校3校、中学校2校（計5校）
必要なネットワーク速度が確保できている学校数：4校（80%）
※「校内通信ネットワーク環境整備等に関する調査」（文部科学省・令和5年11月実施）の結果より、「学校規模ごとの当面の推奨帯域」（文部科学省・令和6年4月）を満たしている学校数

2. 必要なネットワークの速度の確保に向けてスケジュール
 - （1）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール
令和6年11月から令和7年3月まで事業者へ委託をして5校すべてのネットワークアセスメントを行い、課題の特定を完了させる。

 - （2）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール
ネットワークアセスメントの結果を踏まえ、令和7年度より改善策の検討を開始する。改善策の検討が済み次第、予算の確保を行い、順次改善を実施する。

【須恵町】 校務DX計画

令和5年3月文部科学省で、GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議の提言（GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高速化を目指して～）をとりまとめ、次世代の校務DXの方向性が示されたところである。

ここでは、現在の校務情報化の課題、今後数年にかけて次世代の校務支援システムの整備やクラウド活用を前提としたGIGAスクール環境の積極的な活用といった次世代の校務DXの方向性、今後取り組むべき施策が記載されている。

須恵町として教職員の働き方改革の検討は急務となっており、校務のDX化を推し進めることにより、教職員の働き方改革を促進していきたい。

1. 校務DXの推進について

校務DXの推進に向けて、教職員のICTの知識の向上や授業でのICT活用の促進のため配置してあるICT支援員を活用して促進していく。

教職員の研修・会議については配布しているタブレットや大型提示装置を利用して行なっていただき、ペーパーレス化を促進していく。

2. 校務系及び学習系ネットワークの統合

現在校務支援システムについてオンプレミスで運用している。このため、教職員は職員室以外から校務系システムへアクセスできず、校務系と学習系で端末を使い分ける必要がある。これらの課題を解決するためには、校務系システムを従来のように運用するのではなく、ゼロトラストの考え方にに基づきアクセス制御によるセキュリティ対策を十分講じた上で、校務系・学習系ネットワークの統合に向けて調査研究していく。

3. 押印やFAXの廃止について

押印やFAXの廃止については文部科学省や福岡県より通知されており、学校に周知しているところである。FAXを利用している学校はまだあるため、慣行の見直しとともに、関係団体に働きかけをしていきたいと考えている。

4. 次世代校務支援システムの導入について

福岡県ではふくおか電子自治体協議会において次世代の校務支援システムの協議・テスト等を行ってきており、令和7年度より利用が開始される。

須恵町は令和8年度まで現在の校務支援システムの契約があるため、令和9年

度より次世代校務支援システムの導入を図っていき、その際に名簿情報の不必要な手入力作業の一層に取り組んでいきたい。

【須恵町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～すべての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの表現～」においてICTを利用して個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指すべき「令和の日本型学校教育」の姿を示している。

須恵町では第三期須恵町教育振興基本計画(2023年度～2026年度)において基本方針2 心の教育を推進し、感動・感謝・共感できる豊かな感性を持った「ひと」を育てるの②目標3確かな学力の育成においてICT等を活用した多様な家庭学習方法の推進やICT等を活用した効果的な学習指導の推進を掲げており、ICTを活用した確かな学力の育成に取り組んでいく。

2. GIGA第1期の総括

令和元年よりGIGAスクール構想が始まり、タブレットや大型提示装置、ネットワークの整備を行ってきた。それに伴いAIドリルや学習eポータルソフト面の導入、ICT支援員を配置し、児童生徒や先生の技術面・運用面のサポートを行ってきました。それにより授業でのICTの活用が進んできており、工夫した授業をされる教職員も出てきております。ただ、課題として学校間でICTの活用に差が出てきていたり、ネットワークの繋がりにくい学校も出てきている。

ICTの活用の差についてはICT支援員の活用や教員間での研修を増やすようにし、ネットワークの繋がりがやすさについてはネットワークアセスメントを行なったうえで改善の検討を行い、改善の実施を行っていきたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用に向けた目標

GIGA第1期で導入した大型提示装置やAIドリル、令和7年度～令和10年度に入れ替えを予定しているタブレットを引き続き活用していきたい。また今後本格的に導入されるデジタル教科書を実践的に活用していきたい。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実

児童生徒が1人1台端末を活用し、「児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する授業」「教職員と児童生徒のやりとり、児童生徒同士がやり取

りし学びあう授業」を行っていき、個別最適・協働的な学びの充実を図っていきたい。

(3) 学びの保障に向けた目標

希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業への参加、希望する児童生徒への端末を活用した教育相談等、実態に応じた学びの保障を行なっていきたい。